

2020 CRF1100L Africa Twin のカラーリングデザイン

Coloring Design for 2020 CRF1100L Africa Twin

桂 川 碧¹

Midori KATSURAGAWA

要 旨

2016年に発表されたAfrica Twinは、その再興を掲げて、トリコロール、CRF Rally カラー、モノトーンカラーの3タイプのカラーバリエーションを展開した。それらは単純なカラーバリエーションではなく、主たる使用用途と連動させた、カラーリングごとに違う世界観を持つ特徴的なものとなった。2020年モデルでは、オフロード走行をより楽しめるAfrica Twinと快適なツーリングのための進化を図ったAfrica Twin Adventure Sportsの二つのタイプを設定した。カラーリングを検討するにあたっては、それぞれのカラーが持つ特徴やヘリテージとリンクさせることにより、さらに深化した世界観を表現した。

ABSTRACT

In 2016, Honda revived the iconic Africa Twin with three color schemes: Tricolor (red/blue/white), CRF Rally (red/black/white), and monotone (black, silver). Instead of being simple color variations, they create distinctive moods for the respective models with differing primary usage. The 2020 model has two versions: the Africa Twin with enhanced off-road riding experience, and the Africa Twin Adventure Sports with enhanced comfort for touring. In considering the color schemes, we sought to express a deeper worldview of the iconic model by linking each color scheme to its own characteristics and the model's heritage.

1. まえがき

1988年にデビューした初代Africa Twinは、パリダカールラリーで1986年から4年連続優勝を成したNXR750の技術をフィードバックして開発されたアドベンチャーモデルである。その高いオフロード走破性とフルフェアリングを備えたユニークなスタイリングは、欧州を始めとした多くのお客さまの支持を得た。その後、排気量拡大などモデルチェンジをおこないながらも2003年に生産を終了した。

2016年、Africa Twin復活を望むお客さまの声に応える形で、「Go anywhere－日常のコミューティングから広大な夢の大地を走破できる、本格アドベンチャーモデル」を基本コンセプトとした、CRF1000L Africa Twinを発売した。Africa Twinの後継モデルとしてその伝統を踏襲しながらも、環境性能や次世代モデルとしてふさわしい技術⁽¹⁾

を取り込むことでアップデートし、日常から週末の冒険まで幅広く楽しさを広げるモデルとした (Fig. 1)。



Fig. 1 The 2016 CRF1000L Africa Twin

¹ デザインセンター

2018 年には、基本となる Africa Twin (STD) に対しガソリンタンク容量を増やすなど、より長距離のツーリング走行を楽しめる Africa Twin Adventure Sports (AS) をタイプ追加し、アドベンチャーモデルとしての楽しみの幅を広げた (Fig. 2)。

2020 年、フルモデルチェンジを果たした Africa Twin は、スリムで軽量の車体による軽快なオフロード走行をより楽しめる STD タイプ (Fig. 3) と、大容量の燃料タンクと大きなフェアリングにより存分にツーリングを楽しむ AS タイプ (Fig. 4) として各仕様を刷新し、二つの先鋭化させたモデルに仕上げられた⁽²⁾。

二つのタイプとなった 2020 CRF1100L Africa Twin のカラーリングを検討するにあたり、これまで設定されてきた 3 タイプのカラーが、各々どのようにユーザに受け入れられ、それぞれの世界観を確立させていったのか考察をおこなった。

本稿では、上記考察の結果と、それらを踏まえた 2020 モデルにおける具現化手法について述べる。



Fig. 2 The 2018 CRF1000L Africa Twin AS



Fig. 3 The 2020 CRF1100L Africa Twin STD



Fig. 4 The 2020 CRF1100L Africa Twin AS

2. 2016 年モデルから 2019 年モデルのカラー考察

2016 CRF1000L Africa Twin 開発時におけるカラーリングテーマの根幹は、「Africa Twin ブランドの再興」であった。

トリコロール、CRF Rally カラーという大きなイメージカラーの 2 色と、新価値提案の位置づけとなるモノトーンカラーを設定した⁽³⁾。これら 3 タイプのカラーリングコンセプトを以下に示す。

- ・トリコロール: Africa Twin ブランド再興の象徴
- ・CRF Rally カラー: 最新ダカールラリーレーサの勢いの表現
- ・モノトーンカラー: 大人のツアラーとしての新しい価値

2.1. カラー別生産 (販売) 比率

まずは 2016 年のモデル復活以降のカラーヒストリーおよび生産台数に占めるカラー比率の確認をおこなった (Fig. 5)。累計 10 万台を超える生産台数の 8 割を欧州向けが占めることから、主に欧州ユーザの好みを反映したデータとなっている。設定した 3 タイプのカラー比率は当初、トリコロール、CRF Rally カラー、モノトーンカラー各々が拮抗していた。その後 Africa Twin ブランド再興の象徴として位置づけられたトリコロール人気が高まっていくが、2018 年に追加された AS タイプが、初代モデル (Fig. 6) をイメージしたトリコロールのみの設定だった影響も大きい。

2.2. 各カラーに対するユーザの想いとデザイナーの「気づき」

2016 年モデルの発売以降、上記カラーごとの生産台数の推移を観察し、アンケートの自由記述欄等、世界中のお客さまの声に耳を傾け続けることで、カラーリングに対する「気

づき」を得た。それは、トリコロール、CRF Rally カラー、モノトーンカラーに対し、お客さまは単純なカラーバリエーションの一つとして捉えているのではなく、主たる使用用途と連動させて選択をしているということであった。

大型モータサイクル自体が趣味性の強いプロダクトゆえ、購入する際のカラー選択にこだわりはあるだろう。しかしながら Africa Twin の場合は「このカラーでないと Africa Twin ではない」、もしくは「このカラーだからこそ良い」という、それぞれのカラーリングに対するユーザの想いに、明確で強いイメージの違いが存在した。

それが Africa Twin のカラーバリエーションならではの特異的な一面であった。

2.3. 各カラーリングの考察

2.3.1. トリコロール

トリコロールは Africa Twin の復活を強く市場に印象付けるため、ブランドイメージの継承の象徴として設定した。初代 Africa Twin (Fig. 6) がまもっていたカラーリングであり、欧州では Africa Twin = トリコロールというイメージが広くお客さまに浸透している。そのトリコロールに対し、すべてが新しくなった新世代モデルにふさわしいイメージになるようアップデートをおこない 2016 年モデルとして採用した。

また、トリコロールは伝統的な Honda のレーシングカ

ラー⁽⁴⁾としても認知されている。遡れば 70 年代のロードレーサにはじまり、モトクロスのチームウェア、世界耐久選手権レーサの活躍、80 年代の WGP レーサやパリダカールレーサから最新のレーサレプリカモデルへと連綿と続いている。従って、初代 Africa Twin を知らないお客さまにも、伝統のレーシングカラーとしての魅力を感じていただくことができるカラーとなる。

トリコロールの Africa Twin は、かつてのパリダカールレースの舞台であるアフリカ大陸を、トリコロールをま



Fig. 6 The XRV650, first generation Africa Twin launched in 1988

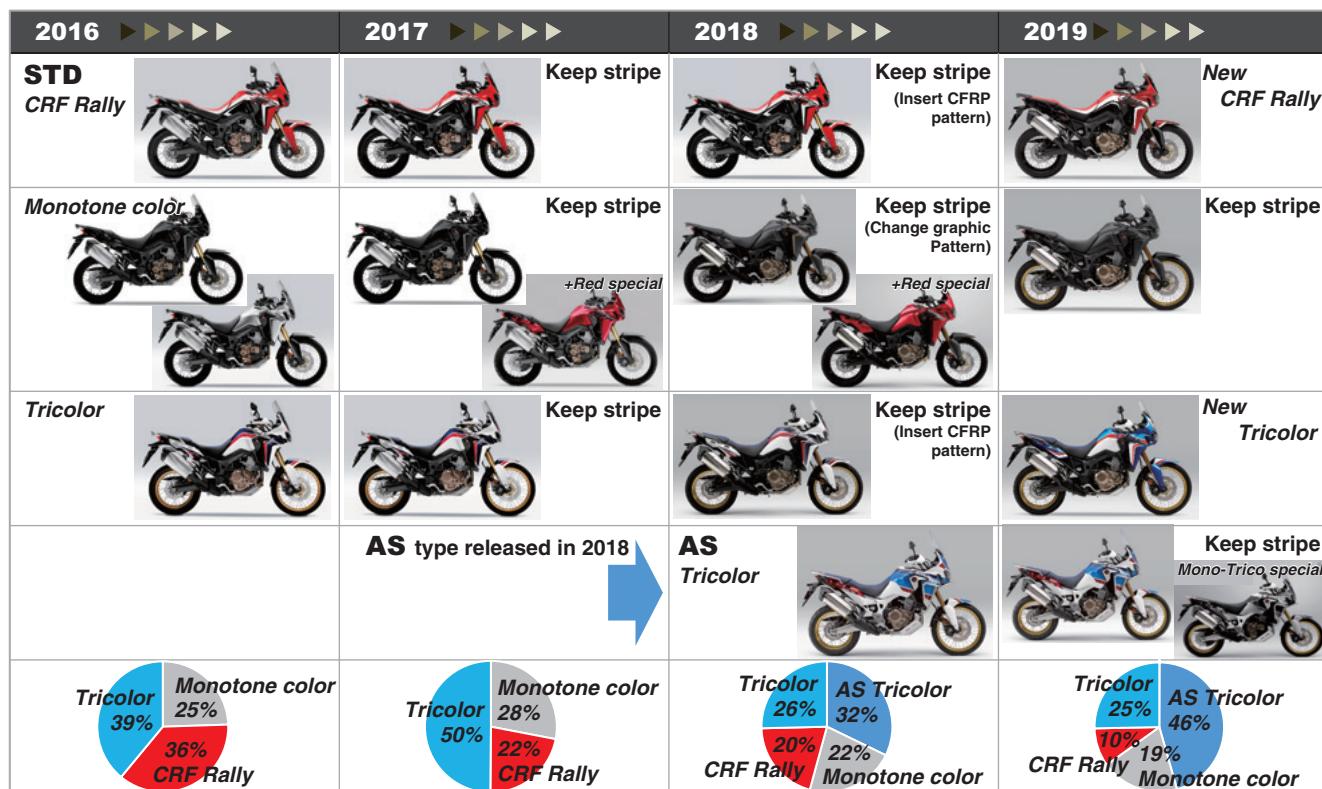


Fig. 5 Changes in color lineup and production ratio

として駆け抜けた NXR750 (Fig. 7) の象徴である⁽³⁾。見果てぬ大地を旅することができるモータサイクルであり、そういった旅情をも想起させるモデルでもある。パリダカールレースに夢中になっていた、若き日の自分自身を重ね合わせる年配のユーザなど、お客さまとの対話を繰り返すことで、Africa Twin × トリコロールは、一人ひとりのバイクライフ上の思い出までも連想させる組み合わせであることがわかった。これらから、最も熱心な Honda ファンや Africa Twin ファンの皆さまの共感を得るカラーとして選ばれていることを理解した。

2.3.2. CRF Rally カラー

最新の Honda ダカールラリーレーサの勢いを、ワークスレーサである CRF450 Rally (Fig. 8) のカラーリングを取り入れることで表現し、新しい時代のアドベンチャーモデルとしての存在感を示した (Fig. 9)。

アンケート結果からは、カラーコンセプトどおりに、最新ダカールラリーレーサのイメージで捉えているお客さまが多い一方、赤という色そのものが持つ強くかっこ良さや、Honda のオフロード車といえば伝統的に赤といったイメージ (Fig. 10) で選択されているお客さまも多かった。



Fig. 7 The NXR750 conquers African continent



Fig. 8 High-performance CRF450 Rally currently used in Dakar Rally

70 年代中盤より Honda のオフロードバイク、モトクロスレーサは、赤をイメージカラーとして訴求していた。そういったイメージが持つシンプルな要素が、お客さまに共感され、シャープな印象やレースシーンで活躍している Honda を連想され選ばれていることがわかった。

2.3.3. モノトーンカラー

モノトーンカラーは、特定の強いイメージにとらわれることなく、幅広い大人のライフスタイルを意識したカラーリングとして、シックな色調や強く強い印象の色調で構成した (Fig. 11)。



Fig. 9 The 2016 Africa Twin coloring design based on the CRF450 Rally



Fig. 10 The Honda CRF series



Fig. 11 The 2016 Africa Twin in monotone (silver)

目立ちがちなレプリカカラーを避けるという意味で選択されることも多い色合いではあるが、Africa Twinの場合はより積極的に選ばれている印象が強い。「アドベンチャーモデルには乗りたいが、オフロードにはいかず、きれいに乗りたい」、「フットワーク軽く、通勤に大型オン／オフモデルを乗りこなすビジネスマン」、「週末はパートナーと揃いのウエアで長距離快適ツーリング」などといった、自分のライフスタイルや走りのスタイルに合わせた選択肢となっている。

2.4. AS タイプ追加による専用トリコロール (2018 CRF1000L Africa Twin AS)

アドベンチャースポーツとしての世界観をさらに高めるために、2018年にタイプ追加されたAfrica Twin ASタイプのカラーリングは、2016年モデル以降のカラー別出荷比率の変遷と、主要市場である欧州からの声を鑑みて検討した。直近の2017年モデルにおいて、すでにトリコロールが半数を占めるようになり、その人気ぶりを示していた (Fig. 12)。

よりツーリング走行を楽しめるようビッグタンクを搭載し、旅を想起させるASタイプには、トリコロールが一番適しているのではないかと考えた。

また2018年は、1988年にXR650、初代Africa Twinが誕生してちょうど30年になる特別な年であった。

これらより、初代のトリコロールをほうふつさせる30周年記念カラーとして設定し、2トーン塗り分けを多用したスペシャルモデルにふさわしい演出を施した (Fig. 13)。

さらにAfrica Twinの世界観を演出するため、30周年記念マークの月桂樹をタイヤパターンで表現し、この30年間、お客さまがAfrica Twinと共に走り続け、想いを寄せ続け下さったことに対する感謝を表現した (Fig. 14)。

結果、2018年モデルにおけるSTDタイプのトリコロールとASタイプのトリコロールの合計は、全体の60%に迫るようになった (Fig. 15)。

2.5. Africa Twinのカラーバリエーションの特徴とブランドの再興

このように、初代が興したAfrica Twinというブランドを、強く確立されたものにするためのカラーアプローチを2016年よりおこなってきた。お客さまがAfrica Twinに求めるイメージは、モータサイクルに接してきた時代背景や、オン／オフ車ゆえの幅広い使用用途によって醸成され



Fig. 13 The 2018 CRF1000L Africa Twin AS



Fig. 14 30th anniversary mark

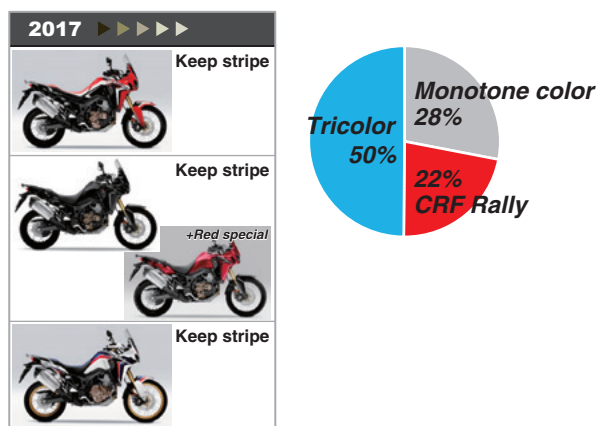


Fig. 12 Shipment volume for 2017 model by color

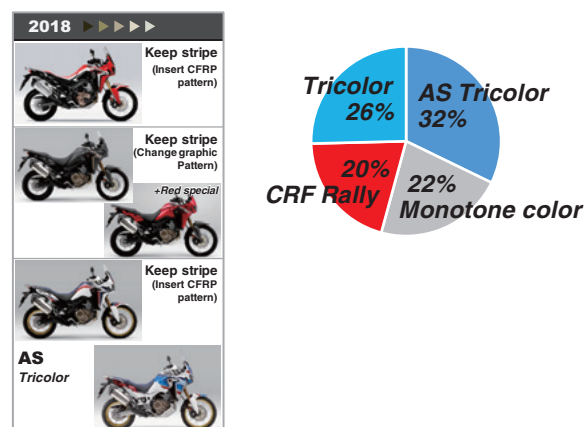


Fig. 15 Shipment volume of 2018 model by color and type

た想いによって変化する。アイコニックなトリコロールと CRF Rally カラー、そしてモノトーンカラーは、そういったお客さまそれぞれの想いに応えると同時に、Africa Twin のカラーバリエーションが持つ特徴となった。発売後 5 年で 10 万台を超える販売実績と、トリコロールを中心にバランス良く各カラーが受け入れられていることから、ブランドの再興は達成できたと考える。

3. 2020 年モデルカラーリングコンセプト および手法

2020 年モデルのカラーリングを検討するにあたり念頭に置いたのは、単純なカラーバリエーションではなく、各カラーがそれぞれの Africa Twin を表現しているという稀有なモデルだということである。

2020 年モデルの大きな特徴は、オフロード走行をより楽しめる STD (Fig. 3) と、快適なツーリングのための進化を図った AS (Fig. 4) という二つのタイプに先鋭化し、それぞれの機能⁽²⁾を充実させたことだ。これは、上記「各カラーがそれぞれの Africa Twin を表現している」とリンクし、カラーリングにおいても、それぞれのモデルコンセプトを的確に表現できるということとなる。Fig. 16 に、それぞれのカラーの住み分けを表現したコンセプトボードを示す。

STD タイプを、大型ながらもタイトな車体でオフロードでの運動性を求めるオン／オフモデル、新しい Africa Twin と解釈し、従来の CRF Rally カラーをイメージカラーとする一方、都会的なエクストリームスポーツイメージのモノトーンカラーモデルを設定した。

AS タイプは、従来の Africa Twin の持つ、アフリカの砂漠を疾走していたパリダカールモデルの印象を継承するツアラとし、伝統のトリコロールをイメージカラーとした。また、AS タイプの特徴を活かすべく、アーバンユースからツーリングまで幅広くこなす大人のツアラをイメージしたモノトーンカラーモデルを設定した。

以下にそれぞれのタイプ、カラーリングごとに施した具体的手法を述べる。

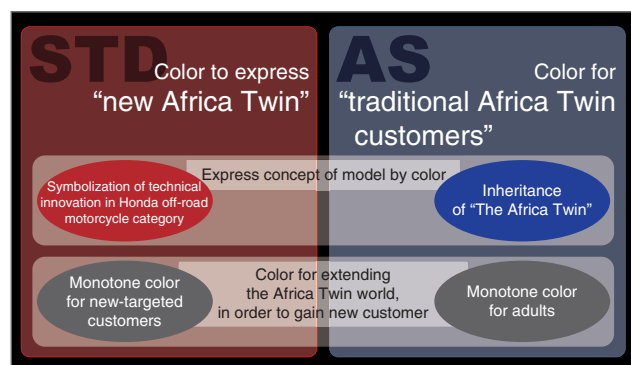


Fig. 16 Coloring concept of 2020 model

3.1. 2020 年 AS タイプ トリコロール

より快適なツーリングを可能とするための進化を果たした AS タイプは、お客さまと共に世界中を旅してきた初代 Africa Twin をほうふつさせる、伝統のトリコロールを中心に据えた。

カラーリングコンセプトを「New Interpretation of Heritage」とし、伝統をモダンに解釈することでトリコロールの深化を図った (Fig. 17)。

2018 年に発表された AS タイプのトリコロールは、先述のように初代 Africa Twin へのオマージュ (Fig. 18) を込めた、横方向へ流れるグラフィックであった (Fig. 19)。

2020 年モデルではモダンさの表現手法として、ジオメトリックな表現を採用した。このジオメトリックなグラフィックを前後方向のラインを意識して配置することで、大容量ガソリンタンク擁した AS タイプの外観を引き締める効果もねらった (Fig. 20)。

またフロントビューでは、2018 年モデルではミドルカウル前縁まで青を回り込んで入れることによって、横方向の堂々とした印象を演出した。しかし 2020 年モデルでは、ミドルカウル前縁を白にし、縦長の印象を与えている



Fig. 17 The 2020 Africa Twin AS in Tricolor



Fig. 18 The 2018 CRF1000L Africa Twin AS with the XRV650, first-generation Africa Twin

(Fig. 21). それにより、コーナリングライト⁽⁵⁾の装備で大きくなったフェアリング全体のボリューム (Fig. 22) に対し、スリムな印象となる効果を得ることができた。堂々とした印象を演出した 2018 年モデルに対し、ツーリング時



Fig. 19 Graphics accentuating lateral flow



Fig. 20 Geometric graphics accentuating longitudinal flow



Fig. 21 Difference in impression in front view by their coloring design

の扱いやすさが感じられるデザインを心がけた。

これら手法を用いて、伝統とモダンの融合と、実際に軽くなった車体の取り回しの良さをも表現することで、伝統のトリコロールの世界観を深化させた。

3.2. 2020 年 STD タイプ CRF Rally カラー

オフロード走行をより楽しむように、スリム化と軽量化を施した STD タイプは、オフロード走破性の高い、最新 Rally レーサとリンクする CRF Rally カラーを中心に据えた。

最新の CRF450 Rally のカラーリングは、赤の比率を多くすることで、より強い印象を持たせている。そこで、カラーリングコンセプトを「VIVID RED HONDA」とし、強さと軽快さを表現するレーサイメージの強化を図った。

Honda のモトクロスレーサを象徴する色である赤の面積を拡大し、よりアグレッシブな強さと、スポーティーさ、軽快感、俊敏さを表現した (Fig. 23)。

また、従来の CRF Rally カラーが赤と白を隣接させたグ



Fig. 22 The 2020 Africa Twin AS equipped with cornering lights



Fig. 23 The 2020 Africa Twin STD in CRF Rally color scheme

グラフィックだったものに対し、黒を間に入れて隣り合う色同士の明度差を出すことで、引き締まった色彩表現をおこなった (Fig. 24)。

これらにより赤を際立たせ、CRF Rally カラーの強さを表現することができた。

これら手法を用いることで、スポーティーさ、軽快感、俊敏さがあがりながらも、各色の印象を鮮烈に見せ、よりアグレッシブな強さを表現することができるグラフィックとし、シャープな印象やレースで活躍している Honda の世界観を深化させた。

3.3. 2020 年 AS および STD タイプ モノトーンカラー

3.3.1. AS タイプ モノトーンカラー

AS タイプに初めてモノトーンカラーを設けるにあたり、現代の多様な価値観を持つ大人のお客さまへ広く訴求していくことを強く念頭において検討した。

カラーリングコンセプトを「Adventure Elite」とし、シックな装いでツーリングはもとより、日常使う街中でも映え、所有のステータスも感じるギアとして、ダークカラーを用いて高い質感を見せることを意識した。

グロスブラックの主体色とアルミパーツの組み合わせが生み出す質感のコントラストは、ハイテクな大人の持ち物を想起させ、堂々としたアドベンチャーモデルでありながらクールな印象の 1 台に仕立てることができた (Fig. 25)。

3.3.2. STD タイプ モノトーンカラー

STD タイプにラインナップされたモノトーンカラーは、CRF Rally カラーでも用いられた赤いアルミサブフレームを効果的に使用し、きびきびとした機動性を感じられるようなグラフィックとした。

カラーリングコンセプトを「MODERN EXTREME SPORTS」と定め、若いマインドを持ったユーザに向け、エクストリームスポーツの持つスピード感を表す直線的な

グラフィックを配した。

都会的な洗練さを表現するため、アグレッシブなイメージのエクストリームスポーツと親和性の高いマットブラックを主体色に選定し、流行を捉えたトレンド感と押し出しの強さの両立を図った (Fig. 26)。

これら 2 タイプのモノトーンカラーは、トリコロールや CRF Rally カラーとは異なる Africa Twin の世界を、幅広いお客さまに訴求するためのモデルとして設定した。これら手法を用いることで、オフロードイメージの強いアドベンチャーモデルに、ハイテク、モダン、都会的な洗練といったイメージを付加し、新しいライフスタイルや走りのスタイルの世界観を深化させた。

以上により、2020 Africa Twin AS タイプおよび STD タイプすべてのカラーが定まった。本章冒頭に掲げたコンセプトボードに対応した、カラーリングバリエーションを Fig. 27 に示す。



Fig. 25 The 2020 Africa Twin AS in monotone (black)



Fig. 24 Differences in details of painted parts between 2016 and 2020 models



Fig. 26 The 2020 Africa Twin STD in monotone (black)



Fig. 27 Coloring variations of the 2020 Africa Twin STD and AS

4. デザインディテール

これまで述べてきたカラーリング同様に、ロゴタイプデザインやシボデザインも、その商品の持つコンセプトを伝えるという重要な役割を担っている。Africa Twinの世界観をより魅力的に形創るためにおこなった以下の内容について述べる。

4.1. ロゴタイプデザイン

2016年モデルでは、STDタイプ、ASタイプ共にシリーズとして共通したAfrica Twinロゴタイプデザインを採用していた (Fig. 28)。2020年モデルでは、モダンにリデザインした共通のAfrica Twinロゴタイプをベースに (Fig. 29)、ASタイプのみアフリカ大陸のフォルムをアイコンックに表現した要素を加え、ロゴタイプマークとして差別化した (Fig. 30)。

これはかつてのパリダカールラリーのように、広大な夢



Fig. 28 Logotype of the 2016 Africa Twin



Fig. 29 Logotype of the 2020 Africa Twin

の大地を走破するAfrica Twinの世界を感じてもらうためのデザインである。2020年モデルASタイプで強化された、長距離移動の快適性と冒険心のシンボルとしての想いを、このロゴマークデザインに表現した。

4.2. シボデザイン

シボデザインは、摩擦の必要度に応じた滑り性の調整や、傷を目立たせないといった機能的側面と、見た目の上質感の付与、すなわち質感向上において重要な役割を持つ。

今回、シボにおける新しいデザイン表現を目指し、外部デザインスタジオとの共同作業による検討もおこなった。

本格オフロード性能という機能面のみならず、オーナーの感性を刺激し所有欲を満たす「躍動感を与えるパターン」をテーマとし、絞り込んだ3案をFig. 31に示す。さらに実際の部品に施した際の見映えなども踏まえディスカッションを重ね、B案をベースに微調整を加えたパターンに決定した。シボが施された状態をFig. 32に示す。

B案は、Africa Twinの「Go anywhere」という基本コンセプトから、広大にそして複雑に続いていくラリー競技におけるコースをイメージし、ジオメトリックな処理をしたパターンとして導き出したものである。

ランダムロードと名づけたこのパターンは、またがった瞬間に目に入り、躍動的な気持ちで乗車してもらうことをねらいとして、ユーザの目に留まるタンク上面やスピードメータ周りのカバーに施した。



Fig. 30 Logotype mark of the 2020 Africa Twin AS

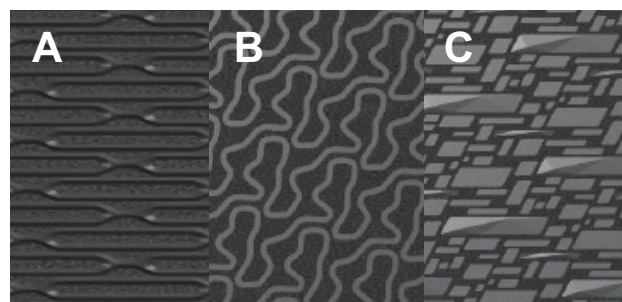


Fig. 31 Candidates for textured pattern

Africa Twin の使い勝手から、雨、風、砂などの自然の織りなすさまざまな条件下での耐久性が求められる。そのため新たなシボパターンの採用時は、汚れの落ちやすさなどの確認もおこなっている。

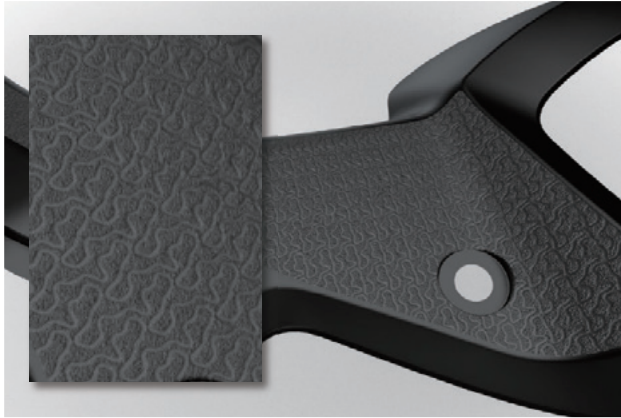


Fig. 32 Textured pattern and applied part

5. まとめ

2016 年モデル以来、Africa Twin のカラーバリエーションは、お客さまの持つそれぞれの Africa Twin に対するイメージにより、カラーリングごとに違う世界観を持つ特徴的なものとなった。

継続しておこなってきたカラーリングアプローチは、お客さまの強い想いとしてのブランド醸成につながった。

2020 年モデルで先鋭化した STD タイプと AS タイプの機種コンセプトと、それぞれのカラーリングが持つ特徴をリンクさせることで、さらに深化した世界観を表現し、Africa Twin ブランドをより確固たるものとするをねらった。

これからも Africa Twin がお客さまと共に走り続け、人生にいつも寄り添うそんな心強い相棒であり続けることを願っている。

参考文献

- (1) 飯塚直, 山倉裕, 今井良幸, 飯田晃祥, 菅野剛, 中村公紀, 小山信也, 中村健一郎, 小野和彦: CRF1000L Africa Twin の開発, Honda R&D Technical Review, Vol. 28, No. 2, p. 9-20
- (2) 森田健二, 岡田望, 岡村広志, 鈴木将太: 2020 CRF1100L Africa Twin の開発, Honda R&D Technical Review, Vol. 32, No. 2, p. 17-26
- (3) 小松昭浩, 桂川碧: CRF1000L Africa Twin のスタイリングデザイン, Honda R&D Technical Review,

Vol. 28, No. 2, p. 1-8

(4) <https://www.honda.co.jp/design/colors/tricolour/sp.html>

(5) 木崎徳次郎, 佐藤宏貴: 2020 CRF1100L Africa Twin Adventure Sports に搭載した二輪車用追加光源式コーナリングライト, Honda R&D Technical Review, Vol. 32, No. 2, p. 35-41

■ 著 者 ■



桂 川 碧